

# 殉職教諭 今も生徒見守る

1953(昭和28)年6月下旬、記録的豪雨が筑後地方を襲った「28水」では、筑後川だけでなく、

矢部川水系でも甚大な災害が発生した。中でも最大の被害が出た八女市曇野村の曇野中には、子どもたちの安全を命がけて守り殉職した伊井中書教諭の遺影などが今も残され、生徒たちを見守っている。

八女郡災害対策本部がまとめた「昭和28年八女郡水」は、6月26日午後1時20分とめた。昭和28年八女郡水は、6月26日午後1時20分とめた。昭和28年八女郡水は、6月26日午後1時20分とめた。昭和28年八女郡水は、6月26日午後1時20分とめた。

下校させた。その後、ずぶぬれになりながら、それぞ曇野中の保健室隣の廊下の生徒が無事帰宅している。伊井教諭の遺影が、職室を確保する途中に下宿員室の片隅にも肖像画がそに替えに立ち寄った際、れぞれ飾られ、今も校内を家屋が大量の土砂に襲われ、静かに見つめている。立松た。佐布子校長は「殉職された。水害誌は、伊井教諭が発見されたこととは知っていたが、見られた際、下宿先の4歳の子どもの助けよう、つた。教師としての使命感右手に幼児を抱きながら、右を持って動いた人がいることになっていたことを記して、とを、他の先生や生徒にもいる。教諭の後頭部には「伝えたい」と話した。相当な負傷があつたと(軸丸雅訓)



生徒たちを見守る伊井中書教諭の遺影

## 八女市・星野中 廊下に遺影

**水28年**  
記憶をつなぐ

金山から出た土砂をためた鉢澤ダムが決壊。推定量2万立方メートルの土砂が13棟を飲み込み、死者13人、行方不明1人、重軽傷81人の大惨事が発生した。伊井教諭は、曇野中に取



職員室の片隅には伊井中書教諭の肖像画も飾られている

### 集団下校させ、土砂にのまれる

令和五年六月十一日 西日本新聞